

2021年1月  
No.21-008a(山)※1

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。  
取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### ■新規受託項目

- [ - ] HTLV-1/ATL HAS-Flow 解析

#### ■受託開始日

- 2021年1月18日(月)

## HTLV-1/ATL HAS-Flow 解析

ATL(Adult T-cell Leukemia-Lymphoma)はHTLV-1(Human T-cell Leukemia Virus Type1)の感染によって引き起こされる造血器悪性腫瘍であり、主要な感染経路は母子感染、特に乳児期の母乳による授乳が多いとされています。

HTLV-1に感染するとT細胞内にプロウイルスとして存在し、自然に消失することはなく終生感染が持続しますが、ほとんどが無症候性キャリアとして推移し、数十年の時を経てその約5%がATLを発症します。ATLを発症すると高度の免疫不全を引き起こし、さまざまな日和見感染症を合併することが知られています。

平成20年の厚生労働省の調査による推定キャリア数は約108万人とされており、以前より西南日本に感染者の偏在が認められています。

本検査はHTLV-1 Analysis System(HAS)といわれる、フローサイトメトリーを用いたゲーティング法によりHTLV-1感染細胞を解析(HAS-Flow解析)するものです。HTLV-1感染からATL発症に至るまでの潜伏期間は非常に長いため、その間の病態把握や発症予測が重要となります。

本HAS-Flow解析では、無症候性キャリアからくすぶり型/慢性型ATL(indolent ATL)への病態の進行に伴うCD7の発現の低下、CADM1(cell adhesion molecule 1)の発現の増加を評価することが可能であり、病態・進展予測に有用とされています。

### ■検査要項

項目コード	-
検査項目名	HTLV-1/ATL HAS-Flow解析 *1,2 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px;">予約</span>
検体量	ヘパリン加血液 2mL *3 [容器形態:PH5] または EDTA加血液 2mL [容器形態:13]
保存方法	室温
検査方法	フローサイトメトリー法
基準値	(設定せず)
報告形態	別紙報告書
所要日数	3~5日
検査実施料	未収載
備考	*1: 受付曜日: 月~金曜日(休祝日とその前日は不可) *2: 検体採取後24時間以内に検査委託先に搬入する必要がありますので、事前にご連絡ください。 *3: 骨髄液 1mLでも検査可 [容器形態:22]
検査委託先	株式会社LSIメディエンス

### ■参考文献

内丸薫, 臨床病理 66(8):867-875, 2018.

S Kobayashi, K Uchimaru et al. : Clin Cancer Res. 20(11):2851-2861, 2014.

S Kobayashi, K Uchimaru et al. : Cancer Sci. 106(5):598-603, 2015.

J Makiyama, S Kobayashi, K Uchimaru, et al. : Cancer Science. 110:3746-3753, 2019.